アナログタコグラフチャート紙自動解析システム

運転日報作成機能を新たに搭載

　ソフトウェア開発の株式会社ワイズ（本社：長野市　代表取締役社長　福澤直樹）は、タコグラフチャート紙／自動解析・運行管理システムに運転日報出力機能を追加しアップデートした。

　同システムは、これまで目視・手作業で行われていたアナログ式タコグラフチャート紙の解析作業を自動化。稼働時間を集計し、「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」（改善基準告示）に適合するチェック機能を有し、今回、運行管理のために、細かな内容を確認できる運転日報作成機能を新たに搭載した。

　チャート紙を市販のデジタルスキャナー（ＪＰＥＧ形式・解像度６００ｄｐｉ）で読み取り、作業開始時間・終了時間のほか、連続運転時間等を自動で認識する。丸型チャート紙画像を横型展開することで、時間軸を基にした管理が可能となり、確認作業の効率化を実現した。稼働状況を３ヶ月単位で集計し、改善基準告示適合を全日チェック。不適合箇所は着色表示され、適合・不適合を一括で判断可能。同社による実証実験では、タコグラフチャート紙の解析から稼働状況集計表の作成までの一連の作業時間を従来比４分の１まで削減する。

　新たに搭載された、運転日報作成機能は、乗務時のイベントをチャート紙自動解析後に登録することにより、乗務員の運転日報作成作業時間の短縮を図る。

